

No.2019-10

欧州議会選挙 事前予測とほぼ同じ結果に

欧州人民党は獲得議席数を減らすも、極右・ポピュリズム政党も票伸びず

- ▶ 欧州議会選挙は欧州人民党が獲得議席数を減らすも第一党を維持。
- ▶ 注目された各国の極右・ポピュリズム政党は、イタリアでは『同盟』が第一党を獲得も他国では事前予測どおりの結果となり、獲得議席数は伸びず。概ね現体制に変更はなし。

～欧州人民党は議席を減らすも第一党維持～

5月23日～26日に欧州各国で行われていた欧州議会選挙は大勢が判明し、最大会派である欧州人民党(EPP)が第一党を維持し、中道左派会派である欧州社会・進歩連盟(S&D)が第二党を維持しました。両会派の大連立による過半数獲得で議会を運営してきましたが、今回選挙では過半数獲得に至りませんでした。過半数維持のため中道会派の欧州自由民主連盟(ALDE+R：欧州議会選挙初参加のマクロン大統領が率いるフランス『共和国前進』などが合流予定)や躍進した欧州緑グループ/欧州自由連盟(Greens/EFA)などとの協力が想定されます。

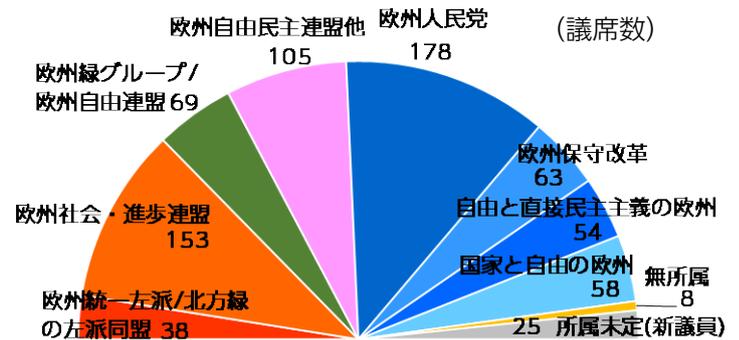
～英国では強硬離脱派政党が最多議席獲得～

英国では与党保守党が議席を減らし強硬離脱を訴えるブレグジット党が最多議席を獲得しました。一方で、EU(欧州連合)残留を訴える自由民主党は二番手につけ、残留を目指す他政党を合計すると強硬離脱とEU残留を支持する有権者が拮抗しています。離脱方針決定の混乱を反映するように離脱を巡る民意が割れていることを象徴する結果となりました。

～イタリア『同盟』は議席数を伸ばす～

躍進が予想されていた反EU・反移民などの公約を掲げる会派は改選前から議席を増やしました。イタリアトップの約34%の票を獲得したサルビーニ副首相率いる与党『同盟』ですが、選挙戦で極右、ポピュリズム(大衆主義)政党の結束を唱えていました。新グループ結成相手として期待されるフランス『国民連合』やドイツ『ドイツのための選択』などが、議席減や事前予測議席に留まる結果となりました。一般的に投票率が低い場合には伝統的な政党(会派)が有利と言われますが、前回よりも投票率が上昇した今回選挙では、極右、ポピュリズム政党に有利との見方もあり、事前予測を上回る結果を予想する声もありました。票が伸びなかった背景には大衆政党としての幅広い支持を得るため、反移民や

図表1：欧州議会選挙結果(一部暫定結果含む)



※ 総議席数751 欧州時間5月28日18:11時点

図表2：欧州議会の主要会派と議席変動

会派名	議席数	概要
欧州人民党(EPP)	178 (-39)	最大会派で中道右派。ドイツCDU・CSU、フランス共和党、スペイン国民党などが所属。
欧州社会・進歩連盟(S&D)	153 (-33)	中道左派の第2会派。ドイツ社会民主党、イタリア民主党、イギリス労働党などが所属。
欧州保守改革(ECR)	63 (-13)	保守主義、欧州懐疑派、中道右派。イギリス保守党、ポーランド法と正義などが所属。
欧州自由民主連盟<+ルネッサンス連合他>(ALDE+R)	105 (+37)	中道主義会派、汎欧州主義派。ドイツ自由民主党などが所属。フランス与党『共和国前進』を中心とする連合(ルネッサンス連合)などが今後合流予定。
自由と直接民主主義の欧州(EFDD)	54 (+13)	反EU・反移民、極右やポピュリズム(大衆主義)政党など混在。イタリア五つ星運動などが所属。
国家と自由の欧州(ENF)	58 (+21)	反EU・反移民、極右。フランス国民連合、イタリア同盟(他の会派を新設の可能性あり)などが所属。

※ ()は改選前と比較した議席増減数
出所) 図表1、2は欧州議会HPおよび各種報道資料等をもとにニッセイアセットマネジメントが作成

反EUなど強硬的な政治姿勢から穏健な姿勢へイメージチェンジを狙ったことがあるとの見方を示したメディアもありました。各極右政党などの協力体制は、財政規律(イタリアは緩和派、ドイツは緊縮派)に対するEUルールを巡って立場が異なるため困難との見方もあります。与党勢力が議席を減らしたものの、波乱はなく概ね勢力図が維持できたことから、今後は欧州委員長、EU大統領(欧州理事会議長)などの要職選出を巡る各国の駆け引きが活発化していくことが想定されます。

(2019年5月27日～5月31日)

(1) 日本の株式・債券市場

株式市場の動き

- 日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で下落しました。週初は3営業日ぶりに反発してスタートしました。週中以降は、米中貿易摩擦の長期化が世界経済を下押しするとの懸念などから、週末まで続落となりました（週末引け値：20,601.19円）。
- 週間では、日経平均株価は2.44%の下落、東証株価指数は1.88%の下落となりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

債券市場の動き

- 日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で低下となりました。米中の貿易摩擦の長期化懸念や欧州経済の先行き不透明感などから、相対的に安全資産とされる債券は買われました（利回りは低下）（週末引け値：-0.094%）。
- 週間では、0.024%の低下となりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

(2) 米国の株式市場

市場の動き

- 米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で下落となりました。米中貿易摩擦が長期化するとの懸念などから、週を通じて幅広いセクターで売られる展開となりました（週末引け値：24,815.04ドル）。
- 週間ではNYダウは3.01%の下落となりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

(3) 外国為替市場

市場の動き

- 米ドル/円相場は、前週末比で円高米ドル安となりました。米中貿易摩擦の激化により、世界的な景気減速懸念が高まったことから、リスク回避目的の円買い米ドル売りが優勢となりました（週末引け値：108円25銭～35銭）。
- 週間では米ドル/円は0.93%の円高、ユーロ/円は1.22%の円高となりました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>